

## 贈呈式

贈呈式は、宮野常任理事の「教育界では多くの課題があるが、子どもたちの未来のためには学力向上への取り組みとグローバル化への対応を進めることが大切」というあいさつで始まり、80件、助成総額4,525万円の贈呈を行いました。



## 発表会

発表会は、平成20年度の助成対象者10団体に一年の研究結果を発表していただきました。



福浜幼稚園の発表

製作者集団 猪八戒の発表

## 交流会

続いて交流会では、岡山の教育に尽くされている方々が一堂に会し、情報交換をしていただく良い機会となりました。



## 福武教育文化叢書の第2弾発刊！



岩崎淑さん・岩崎洸さん共著による『音楽さえあれば—ピアノとチェロで世界を巡る』がこのほど吉備人出版から出版されました。本書は、第6回福武文化賞の受賞者であるピアニスト岩崎淑さんとチェリストの洸さんが、音楽好きの両親のもとで育った幼いころから、留学時代を経て、演奏家として世界を舞台に活躍し、後進を指導する現在までを振り返ってまとめた半生記です。

なお、先日発表された社団法人日本図書館協会の第2686回選定図書に選ばれました。

## 平成21年度 助成先の活動

### ◎第六回犬島時間

開催日 平成21年8月1日(土)～8月3日(月)  
8月7日(金)～8月9日(日)  
11:00～17:00 鑑賞料500円

会場 犬島内各所  
主催 犬島時間実行委員会

### ◎ENGPさんたばっぐ2009プロデュース公演 「僕がここにいる理由」

開催日 平成21年8月9日(日) 13:00開演(開場12:00)  
会場 倉敷市芸文館  
主催 岡山エンターテインメント演劇プロデュース集団さんたばっぐ

### ◎第2回 おかやまキッズアート展

開催日 平成21年8月15日(土)～8月18日(火)  
10:00～17:00 入場無料  
会場 ギャラリー「すろおが463」  
主催 おかやまキッズアート展実行委員会

### ◎星月夜のコンサート ライトダウンin あさくち'09

開催日 平成21年9月6日(日) 18:00～21:00 参加費無料  
会場 浅口市三ツ山スポーツ公園 野外ステージ  
主催 第25回国民文化祭浅口市実行委員会・岡山天文博物館ほか

## 理事・評議員が代わりました。

6月22日に開催された平成21年度第1回理事会・評議員会に於いて一部の理事・評議員が変更になりました。

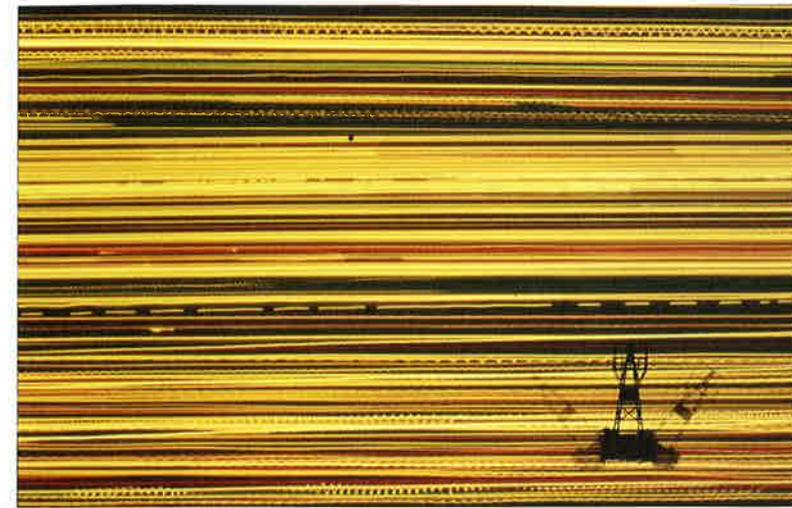
理事長 福武総一郎 副理事長 本田茂伸 常任理事 宮野正司(新)

理事 谷口弥生・福武純子(新)・目瀬守男

監事 西田三千代・沼澄夫

評議員 白井洋輔・大倉徹彦・鍵岡正謙・片山浩子・越宗孝昌  
下妻道郎(新)・千葉高三・福武美津子・森崎岩之助(新)

\*五十音順・敬称略



F U E K I 不易  
vol.135

[特集2] [特集1]

聞 一

福武哲彦教育賞受賞者に聞く

瀬戸内国際芸術祭まであと一年

く 年

★津山市立北陵中学校を訪ねて★平成二十一年度 教育関係助成贈呈式及び発表会を開催★福武教育文化叢書の第2弾発刊！  
★平成二十一年度 助成先の活動★理事・評議員が変更

## 津山市立北陵中学校を訪ねて

今回は吹奏楽部が第9回谷口澄夫教育奨励賞を受賞した津山市立北陵中学校を訪問しました。

北陵中学校は、津山市街から北に行った辺りの緩やかな丘陵地に立地し、校舎からは津山市街や発展著しい北部地区が一望できます。近くに弥生時代の住居跡や国立津山工業高等専門学校、美作大学があり、津山の文教地区といった落ち着いた環境です。



手入れのゆきとどいた中庭

学区の南部は聚楽園や市役所がある市街地、新興住宅地や商業地として発展が著しい中央部、そして北部の農山村地区と変化に富んだ学区を有しています。

落ち着いた環

境の中で中島章校長先生の元約650名の生徒たちは、55名の教職員とともに勉強や部活動に励み、充実した中学校生活を送っています。

中島校長に学校の特徴を伺うと、第1に「地域との交流」をあげられました。学校行事や活動に様々な形で地域の方々が関わっており、また生徒たちも積極的にボランティアに参加しているそうです。

毎年11月に行う「大なべ祭」は、生徒の進路を応援する取り組みとして、生徒が農家その他を訪問して食材を集め、地域の「若妻会」や美作大学の学生と一緒になべを作りながら交流を深めます。

夏休みにはWakuWaku講座を行い、「3年生補充教室」の他、パソコンを地域の方々と一緒に学ぶ「地域開放講座」、「AEDと救命救急体験講座」、津山工業高等専門学校の学生の指導を得て「ロボット作成教室」など、地域や大学・高等専門学校と交流しています。

今回受賞した吹奏楽部は、小学校に出掛けて行う「スクールコンサート」、地域の夏祭りで演奏する等を行い好評です。

## 盛んな地域との交流

## 斬新なアイデアも取り入れ

また、大切にしているものの一つに、ボランティア活動があります。生徒たちが「北陵中がんばり隊」を組織して8月の日曜日に、ゴミ拾いや吉井川河川敷清掃活動に参加ががんばっています。

一方、生徒たちの自主的な活動を尊重しています。校長、事務長等と生徒会が定期的にミーティングを持ち、生徒の提案を受け入れて施設設備の改善に役立てています。例えば、手洗い場の前には柵が設けてあり、これは生徒の提案で設けたもので、大変便利とのことでした。

校長先生と一緒に校内を歩きながら、掃除が行き届いていて、非常にきれいだと感じました。特にトイレは、前校長のとき、生徒たちのアイデアを取り入れて改修をしたところ、生徒たちは大切に使用しているとのことでした。

午後4時になると、楽器を吹く音が聞こえてきます。

部活の時間は、午後4時から6時まで。吹奏楽部は部員数70人、普通教室でパーツごとにそれぞれが練習しています。楽器は高価なため、今回受賞した教育奨励賞の副賞は非常にありがたいとのことでした。

このように、北陵中学校は先生の指導の他、地域の方々も積極的に関わりを持ち、落ち着いて充実した学校生活を実現しています。学区が大きく変化する中で校長先生はさら

に新しいアイデアをもって構想を練っていると伺い、この学校の発展する姿を楽しみにしています。(財団・佐々木)



吉井川河川敷清掃活動



吹奏楽部の生徒たち

第23回福武哲彦教育賞を受賞された太田健一氏と竹内昌彦氏に受賞の喜びと今後の抱負を語っていただきました。

## Q.教育賞受賞の感想は？

賞には縁がないと思っていましたので、驚いております。学問だけは真面目に取り組んできましたので、評価していただけて幸せです。

## Q.地域史との出会いは？

大学3年生の夏休みに谷口澄夫先生が始められた地域研究の一端で蒜山の小さな村に現地調査に入ったことがきっかけになりました。その調査・研究を四苦八苦しながらまとめ、印刷したものを手に取った時に今までにない充実感を味わいました。それから、古文書の勉強するために地域に入るようになりました。

## Q.地域史の魅力は何ですか？

Serendipityです。Serendipityとは、幸運な発見とか幸運の女神という意味で用いています。自分の視点を変えることで新しい資料に巡り会えたときの感動は言葉には言い表せません。例えば、政治経済の視点から調査した場合には出会えなかった資料に、女性や福祉の問題など弱者の視点から資料をみますと、今まで取り扱われなかった未知の資料と出会えたことがありました。

## Q.地域史から伝えたいメッセージは何ですか？

日本の中の岡山を考えていくときのお手伝いになればと思っています。

## Q.今後はどのような調査・研究をされる予定ですか？

この秋には、「塩田王」と呼ばれた野崎家の台湾での塩田開発についてまとめた本が出る予定です。今後は、野崎武吉郎氏が貴族院議員として過ごした23年間や内海塩業株式会社の社史をまとめてみたいと思います。これからも野崎家の魅力をいろいろな視点から調査・研究をしていきます。



Ken-ichi Ohta

明治維新による地主制を始め、近代史の研究者として活躍する一方、高校・大学の教員を勤める傍ら地域史の調査・研究、特に塩田王野崎家、さらには山田方谷、小西増太郎ら先人の発掘や原資料の研究、紹介においても多大な成果を刻む。

## 「新しい発見を社会へ」

## 太田健一氏

## 「夢は、アジアの国に盲学校を建てること」

## 竹内昌彦氏

## Q.教育賞を受賞されたお気持ちは？

これまでおこなってきました障害者理解や人権についての講演活動を評価していただいたことをとても感謝しています。

## Q.夢は、アジアのどこの国に盲学校を建てることだそうですね？

2004年にJICA(国際協力機構)がおこなっている視覚障害者自立支援のための「沖縄プロジェクト」に参加したことがきっかけになりました。このプロジェクトはアジア各国の視覚障害者のリーダーを集め、あん摩の指導をしています。しかし、彼らがあん摩を覚えて、それぞれの国に帰っても教える学校がないという実態を知りました。そこで、アジアのどこの国に盲学校を建てることを目標にしました。

## Q.「どこの国」が、モンゴルになったのは？

モンゴルに決めたのは、1人の青年の話に耳にしたことからです。彼は、日本であん摩・鍼・灸の国家試験に合格し、モンゴルに帰って後進の指導をしています。モンゴルには、日本でいう小学校から高校までの普通科の盲学校はあるのですが、職業教育の学校はないのです。幸いにもモンゴルの盲人協会は彼らに協力的で卒業後はあん摩で働く場所を提供してくれています。そんな彼らに学ぶ環境を整えてあげたいと思いました。

## Q.現在の状況は？

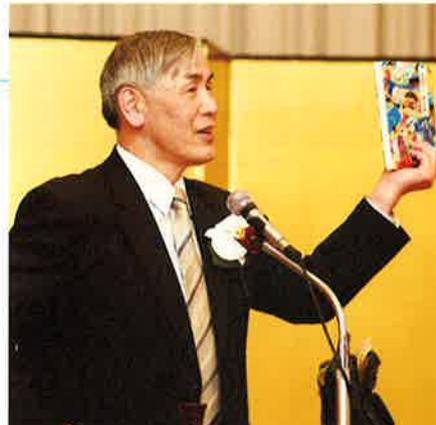
しかし、彼らの志は高く、国家資格に認めてもらえるよう3年コースの学校創設を考え始めました。そうなると私の力では及びません。国に認めてもらうには指導者を養成することが先決ではないかと彼らに言いました。そのあたりの問題を宿題として彼らにあずけている状態です。

## Q.今後の活動は？

夢に向けて今後も同じように活動していきます。これまでのことをまとめた本は書きましたが、夢が叶ったとき応援して下さい。また、報告する意味で、もう一冊本を書いて責任を果たしたいと思っています。

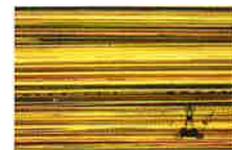
Masahiko Takeuchi

小学校2年生で失明。盲学校から東京教育大へ進学。盲学校の教諭に就任して以来37年間にわたって教職を全うし、平成17年に退職後も自身の体験をもとにした講演活動で、多くの人々に感動を与えている。



## Cover Photograph

## 「過ぎ去った航灯」(緑川洋一)



## 夏の夜の忘れもの

時間を映像に閉じ込める父の作品は結構ある。この作品もそのひとつ。父はこう書き遺している。

「瀬戸内海は夜びっぴで生きている。この海を見下ろす鷺羽山の中腹、屋根状に海へ突き出している所へカメラを構えた。夜8時にシャッターを開き、明け方近い4時ごろに閉めた。この間に通った船の灯りの航跡が全部記録されたこと

になる。過ぎ行く船の灯は正に色とりどり。右舷の赤、左舷の青、そしてマストの黄色、船によって色温度はみんな違うようだ。フィルターは全然使っていない。ともあれ、宝石を引き伸ばしたように美しい。肉眼では点としか見ることができない船の灯を、写真の映像固定能力を武器として使ってみた」と。

しかしこんなエピソードもあったそうだ。瀬戸を見下ろす格好の場所にある旅館を見つけた。180度見渡せる庭の一角にカメラを据えた。夏の夜は暑苦しい。何時間もカメラの前に座り、蚊と闘うのもしんどい。シャッターをセットして部屋に帰りビールを飲んでた。戸をトントンと叩く音がした。旅館の主人らしい。「お客さん、庭にカメラを忘れておられましたので、お持ちしましたよ!」ああ・・・。(長女 西瑞子)

\* データ：リンホフテヒニカ6×9 コムラー500mmF7 8約8時間露出 エクタクローム

## Editor's comments

\* 新型インフルエンザの影響で、オーストラリアへの海外教育事情調査団とプレ留学、日中学生交流事業のいずれも中止せざるを得なくなりました。ある国の生産や金融が直ちに世界中に影響を及ぼすような状況の中で、もちろん病気も例外ではありませんが、現在のグローバルな社会において人の交流や移動が想像以上に進んでいることを実感しました。

\* 財団の業務を県内に周知するため役場を訪問した際に、県北のいわゆる「限界集落」を数多く抱える自治体からは、毎年、地域の伝統文化が消えていく実態をお聞きしました。事業資金がないという以前に、伝える人と教わる人がいなくなっているという現実をどうすればいいのか、大きな社会的課題です。

\* 6月に開催された役員会で、森崎常任理事が勇退され評議員に就任されました。氏は旧教育振興財団と文化振興財団、そして現在の教育文化振興財団の全てで常任理事を歴任され、延べ理事歴は17年に亘ります。また、同じく勇退された福武れい子理事も、その歴は延べ15年に及んでいます。

お二人の財団に対する長年のご尽力とご貢献に、心から感謝申し上げます。(N)

## 季刊 不易

F U E K I vol.35 2009.7.25

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17  
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190  
http://www.fukutake.or.jp/

制作 株式会社 吉備人  
デザイン 田中康一郎(QUA DESIGN style)

瀬戸内海を舞台とする「瀬戸内国際芸術祭」の開幕まであと1年を切り、各会場では準備が着々と進められています。このうち会場の一つとなる岡山市犬島では、精錬所美術館に次ぐ第2期工事がスタートしました。一方岡山経済同友会の地域振興委員会では同芸術祭の総合ディレクター北川フラム氏を招いた講演会を開催するなど、これまで岡山側での周知度が低いとされてきた瀬戸内国際芸術祭は、ようやく岡山側でも期待の高まりを見せてきました。

岡山市犬島では、先月20日(土)、瀬戸内国際芸術祭の総合プロデューサーで、直島福武美術館財団の福武総一郎理事長をはじめ、第2期工事を設計する妹島和世氏、芸術家の柳幸典氏ら60名が参加して起工式が行われ、いよいよ開幕前に完成する現代美術による4ヶ所の工事がスタートしました。



鍬入れをする福武総一郎理事長

犬島は今、精錬所美術館の開館で世界的な注目を集めています。今回着手した3棟を含め、今後3年間で予定されている10棟の現代アートによる家が完成すれば、周囲3.6kmの小さな犬島は世界に例を見ない現代美術の島として大きな反響を呼ぶことになりそうです。

一方岡山市の全日空ホテルで6月12日(金)に開催された経済同友会の講演会では、北川フラムさんが「美術による地域おこしの取り組み」をテーマに講演しました。北川さんは「瀬戸内国際芸術祭は一過性のイベントではなく、芸術祭を核とした瀬戸内海の地域おこし」と考えていると強調。2010年7月19日から100日間にわたって、「海の復権」をテーマに、香川県高松市を母港として直島、豊島、小豆島、男木島、女木島、大島、そして犬島の7つの島を舞台に、それぞれの島の個性を生かしたプロジェクトを展開すると、その考え方と内容について詳しく説明しました。



犬島(撮影・青地大輔)

## 瀬戸内国際芸術祭まであと一年

### 犬島第2期工事も起工

また講演の中で北川さんは、1996年から新潟県の越後妻有で手がけている「大地の芸術祭」について触れ、日本有数の豪雪地帯に現代アートを取り入れたことで、この地方に世界中から人が集まってきている。フランスのナント市でも文化的なイベントや芸術を取り入れた町づくりで成功し、多くの企業がフランス各地から移ってきている。これからは文化芸術による町づくりしか新しい町づくりはないと指摘。過疎化の著しい瀬戸内海も「瀬戸内国際芸術祭」を継続することで、日本の歴史の中核をなしていた時代を彷彿とさせるくらいに甦らせることができる。

瀬戸内国際芸術祭は、芸術家と瀬戸内に暮らす人々が協働でつくり上げる芸術祭だからこそ世界の人々が訪れてその良さを発見するだろう。瀬戸内国際芸術祭の第1回終了と同時に2013年の第2回芸術祭に向けての準備を始め、地域づくりの連鎖性を形成して行きたいと熱っぽく語っていました。(財団・下山)



講演する北川フラム氏